調和の中に生まれる心地よさ
暮らしに寄り添う空間づくり

Company Data

FJ JAPAN

［アトリエ］〒585-0035 大阪府南河内郡河南町寛弘寺321番甲
［本社］〒585-0035 大阪府南河内郡河南町寛弘寺764-5
https://fj-japan.jp

代表
藤野 祐希

大阪府出身。ものづくりへの関心から建築業界に携わる。23歳の時、造園家・荻野寿也氏の仕事に出会い、植物の繊細な枝ぶりや柔らかな気配が、建築の表情や暮らしの心地よさまで変えていくことに強く心を動かされ、造園の道へ。現在も建築家や照明デザイナーとの仕事を通して、建築・庭・光が一体となる空間づくりを学び続けている。2020年、FJ JAPANを設立。建築に寄り添い、暮らしに静けさと安心感をもたらす庭づくりを目指す。

濱中　まずは、藤野代表が造園業の道に進まれた経緯を教えていただけますか？

藤野　以前は建築業界に携わっていたのですが、ある現場で荻野景観設計の造園家・荻野寿也さんの仕事を間近で見る機会がありまして。植物の繊細さ、柔らかさ、そして建築と自然が静かにつながる景色の美しさに強く心を動かされました。また、お客様目線が行き届いた仕事ぶりにも感銘を受け、「自分も造園を通して人の暮らしに関わる仕事がしたい」と思ったんです。それまで、植物や緑に強く関心があったわけではないものの、人が落ち着ける場所とは何かを考えた時に、「緑が与える癒やしや安心感は大きい」と気付きました。そこで、人が心地よいと感じる自然を暮らしの中に取り入れた庭づくりを提案したいと思い、FJ JAPANを立ち上げました。

濱中　日本には四季があり、昔から季節ごとに移り変わる植物や景観を楽しむ文化がありますよね。

藤野　おっしゃる通りで、日本人は特に繊細な感覚を持っています。ですから、海外で流行している植物や庭づくりを取り入れるだけでは、どこか違和感が生まれてしまう。日本の風土や暮らしに合った空間をつくることが、大切だと思っています。

濱中　確かに、トレンドだからといって取り入れても、住む人の暮らしに合っていなければ、結果的に住みづらい空間になってしまいますよね。

藤野　そうなんです。だからこそ私が大切にしているのは、建物と一体で考えることです。建築を料理に例えるなら、植栽はその料理を引き立てる器のような存在だと思っています。器によって料理の見え方や味わいが変わるように、植栽によって建築の見え方や暮らしの心地よさも大きく変わります。建物と庭が調和して初めて、一つの心地よい風景になると考えています。現在も師匠である荻野先生をはじめ、建築家の原田収一郎さん、照明デザイナーである花井架津彦さんとご一緒する機会があり、建築・庭・光が一体となる空間づくりについて、実践的な知識や経験を学び続けています。

濱中　お仕事をするうえで、大切にされていることは何でしょうか？

藤野　人が深く落ち着ける場所をつくることです。庭は、ただ一瞬きれいに見せるためのものではなく、暮らしの中で時間とともに変化し、人に静けさや安心感を与え続けるものだと考えています。それが、私たちが大切にしている雑木の魅力です。山に自生しているような木々や草花を取り入れ、季節や時間の移ろいを感じられる庭をつくることで、暮らしの中に自然の気配を届けたいと考えています。今後も、ただ庭をつくるのではなく、建築や暮らしと調和しながら、人が心から落ち着ける場所をつくっていき、日本全体の景観レベルを少しでも底上げしていけたら嬉しいですね。

Guest Comment

濱中 治（野球解説者）

藤野代表のお話をうかがい、住み手のことを第一に考えた庭づくりに取り組まれている姿勢がとても印象的でした。建物との調和や日本の風土を大切にしながら、心地よい景観を生み出していくという考え方は本当に素晴らしいです。今後も“緑と暮らしが溶け込む空間”を多くの方に提案していってください!

▲ 小さなスペースにも、建築と調和する景色を